

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.7

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

水産車座研究会 in 久慈を開催しました

平成24年6月13日、久慈市漁協において、久慈市漁業協同組合、料理店主、鮮魚販売人及び本学三陸復興推進機構関係者等の参加により、「水産車座研究会 in 久慈」が開催されました。

当研究会開催の趣旨は、日々消費者と直接つながっている料理店主と鮮魚販売人ら「目利き人」を現地に招聘して、久慈地域をはじめとした北三陸の地の魚介類を見ていただくとともに、全国の消費地での販売の可能性について提案並びに意見交換を通じて、北三陸沿岸で水揚げされる水産資源の新たな流通システム構築の可能性を探ることです。

(研究会に先立ち、定置網漁の現場視察が予定されていましたが、残念ながら時化で中止となりました。)

はじめに、久慈市漁協から震災前後の漁獲状況等の説明がされた後、目利き人らが日本各地での水産物の流通と消費(食べ方)について説明を行い、生産地と消費地のダイレクトな情報交換によって地域ごとの嗜好を的確に把握し、それに応じた販売方法の必要性や一手間加えることで創造できる付加価値についての提案がなされました。

そして、流通システムの構築に関しては、鮮度落ちの速い魚を遠隔消費地への高速輸送によって、鮮度がもたらす新たな食べ方の提供と

消費地ニーズの発掘を試みた事例が紹介されました。

このような事例紹介や目利き人からの提案を通じて、消費地の嗜好にマッチさせた提供の仕方によって見出される新たな収益源の可能性等について、参加者間で積極的な意見交換が行われました。

岩手大学では、三陸の水産業復興のため、今後も地元と消費地の方々を交えた話し合い等を通じて、積極的に活動していきます。



水産車座研究会 in 久慈

「水産物高付加価値化プロジェクト」 開始

～キンピールがプロジェクトを支援～

平成24年7月3日、岩手大学内で「水産物高付加価値化プロジェクト」の概要発表会を開催しました。

このプロジェクトは、岩手県の主要な水産物であるワカメ、ウニ、サケ、アワビ等を対象として、岩手大学や連携大学(福井県立大学等)の研究者が開発した技術を活用して、三陸地域の水産加工会社とともに新商品開発を行い、水産物の付加価値を高めることを目的とするものです。岩手大学からは、三陸復興推進機構水産業復興推進部門の三浦靖教授、菅原悦子教授、対馬正秋教授が中心となって取り組みます。

また、このプロジェクトに対しては、キンピールが実施している「復興応援 キリン絆プロジェクト」から2,000万円の研究助成を受けることとなり、発表会の席上でキンピールマーケティング東北統括本部の石田雄治岩手支社長から藤井克己岩手大学長に対して目録の贈呈が行われました。

今後、岩手大学や連携大学等の関係者が一丸となって新商品開発に取り組み、三陸の新たな水産ブランドの創出を目指します。

水産物高付加価値化プロジェクトの概要

- 生ワカメおよび生ウニへの凍結貯蔵技術の適用による新商品の開発
- サケの新食感燻製製品の開発
- 新魚醬製造技術によるアワビ等を用いた魚醬油の開発



石田雄治キンピールマーケティング岩手支社長(右から2人目)から目録を贈呈される藤井克己岩手大学長(中央)

〈宮古市内にて、ワンにゃん号による 動物診療等を行いました〉

平成24年6月17日、宮古市内で開催された「2012動物ふれあいデーin宮古」(主催:被災動物支援隊いわて 共催:岩手大学三陸復興推進機構ほか)において、本学農学部附属動物病院の獣医師及び獣医学課程の学生が、ペット専用移動診療車「ワンにゃん号」を用いて「動物なんでも相談会」「無料マイクロチップ装着」を実施しました。

「動物なんでも相談会」では、飼い主の方とともに訪れた犬・猫計13頭に対して、簡単なしつけや世話の仕方の相談、病気の診察の希望などに応じました。診察に際しては、ワンにゃん号備え付けの機材を用いて、血液検査やエコー検査等を行い、分析したデータをもとに飼い主の方と今後の治療方針などを話し合いました。そのほか、必要に応じて薬や療養食の処方を行いました。

「無料マイクロチップ装着」は、ペットが迷子になってしまった場合に備えて、個体識別データが入ったマイクロチップをペットの体内に装着するもので、今回は飼い主の方の希望に応じて計28頭の犬に装着を行いました。

今回の「ふれあいデー」全体では、好天にも恵まれたことから約270名・動物120頭と多くの人・動物でにぎわいました。岩手大学では今後も岩手県獣医師会や地元の動物病院、支援団体等と連携して、被災動物の支援を継続していきます。



「動物なんでも相談会」の様子

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災復興に取り組んでいます。今回は、三陸地域の水産加工と新たな水産ブランドの創出に取り組んでいる水産新素材・加工技術・加工設備開発班をご紹介します。

『今日の一円、明日の百円、明後日の一万円』構想

岩手大学三陸復興推進機構 水産復興推進部門 水産新素材・加工技術・加工設備開発班 三浦 靖 (農学部 教授)

●『今日の一円、明日の百円、明後日の一万円』構想

東日本大震災で壊滅的な被害を被った水産加工設備・施設を再建するためには、多大な費用と日数を要します。そこで、早期に生業(なりわい)を再生させつつ、水産資源生産・加工の技術革新を目指しています。すぐにも着手し、1年以内にはある程度の成果が出せる案件を「今日の一円」、1年以内には着手し、若干の研究・開発(R&D)が必要な案件を「明日の百円」、2~3年以内には着手し、本格的なR&Dが必要である案件を「明後日の一万円」と呼ぶことにしました。そして、この順序あるいは並行させてR&Dを進めることにより、水産業再生・復興を早期に実現するようにしたいと考えています。

●低経費で収入を得ることが期待できる乾製品から着手

従来からの天日乾燥に替わって、高品質な乾製品を効率よく製造するためのR&Dを開始しました。他産地産の製品よりも安価かつ高品質(ハーブ抽出物で油脂酸化を抑制、食塩以外の食品素材で水分活性を低下させて



保存性を向上など)な製品を「ハーブ干物」としてブランド化するのが目標です。生ウニや生ワカメの凍結貯蔵に関しても、製造現場での検討を開始するところです。

●水産新素材・加工技術・加工設備開発班の取り組み

機能性成分の探索(生体調節機能、品質改良機能)、熱・物質・運動量移動の解析(凍結・加熱)、装置・設備の効率化(海藻の収穫)および水産関連作業の分析・伝承、食品加工技術の革新(乾燥・殺菌)を担当する各グループは、本格的な検討に向けて準備を開始しています。なお、迅速に課題解決するために、本学のみならず3大学連携推進会議の構成機関である東京海洋大学と北里大学と連携する体制をとっています。



試作したホッケ乾製品



低温除湿乾燥装置

釜石サテライトだより

こちらもだんだん気温と湿度が上昇傾向にあります。太平洋から来襲する濃霧の日が多く、涼しい日も多いです。

最近の釜石サテライトの活動状況について報告します。

●アカモク養殖試験について

三陸復興プロジェクト事業の一環として、有用な機能性成分を多く含む海藻アカモクの養殖試験を開始しました。

成熟した母藻から、胞子を採取して、胞子を種系に付着させます。

胞子が付着した種系は、止水の状態で10日間程度保苗した後、海のカキ養殖施設に取り付けます。

今後、サテライトでは、生育状況を追跡調査していきますが、来年の今頃に、どれくらいまで成長するのか楽しみです。



アカモク採苗作業



養殖施設への取り付け

●カジカの増殖への取り組みについて

岩泉町有芸地区の摂待川で、地元住民と共同でカジカの資源量調査を行いました。

調査日は、天気もよく、水も清らかでしたが、カジカは思っていたより少なかったです。

大学では、採取したヒシ標本のDNA分析を行い、放流した他地域産か地元産であるか由来を調べて、どのように資源を増やしたらよいか検討していきます。



摂待川での採捕調査



採捕したカジカ

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先

釜石サテライト
〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町15-2 釜石市教育センター5階
TEL:0193-22-4420 / 0193-22-4426
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp

Information

国際シンポジウム 『女性の視点から持続可能な復興』

東京家政大学他との協働により、国際シンポジウムを開催します。復興支援にあたる地域・全国・世界の方々と、女性の視点、Quality of Life(生活の質)の観点から復興についての課題を共有し、これからについて一緒に考えます。

日時: 8月20日(月) 13:00~17:30
場所: 岩手大学(工学部)総合教育研究棟 復興祈念銀河ホール
対象: 一般(事前申込不要、同時通訳付)
内容: 基調講演
「脆弱性を乗り越えて—災害とジェンダー・年齢・能力—」、
取組報告、講演

お問い合わせ 男女共同参画推進室 TEL 019-621-6998

2012年度岩手大学シニアカレッジ受講生募集

岩手大学シニアカレッジは、岩手大学と岩手県内の自治体や各地域の方々が連携して実施する滞在型生涯学習プログラムです。「学びたい」という動機があれば、どなたでも受講可能です。今年度は東日本大震災で生じた三陸海岸のジオサイト(※火山活動や浸食等、地球活動に伴い形成された自然景観)を実際に目にして自然の持つ驚異を知っていただくとともに、後世の代に語り継いでいくことの大切さや、先人達からの伝えなどを学び、復興に向けて力強く歩み続けている地元の方々とのふれあいを体験していただける講義やフィールドワークを設定いたしました。

開催期間: 9月19日(水)~25日(火)
募集人員: 30名
受講料: 70,000円
(消費税込み・1泊1食込み)

スケジュールやお申し込み方法など詳細は、
<http://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/ssc/>をご覧ください。

お問い合わせ
岩手大学シニアカレッジ事務局
(岩手大学地域連携推進センター内)
TEL 019-621-6492、6852

編集後記

7月11日に、岩手大学地域防災研究センター設立記念特別講演会として「地域防災フォーラム」を開催しました。フォーラムでは、堺茂樹地域防災研究センター長から同センター設立の趣旨が説明されるとともに、ノンフィクション作家で評論家の柳田邦男氏を講師に迎え「災害を見る視点の転換を ~科学の眼、行政の眼、被害者の眼~」と題した講演がありました。参加した一般市民等約300人は真剣な面持ちで聞いており、防災に対する関心の高さが窺えました。